

2016年度

事業計画

自 2016年 4月 1日

至 2017年 3月31日

公益財団法人 正力厚生会

## 【活動方針】

### ◆がん患者支援事業のポイント

がん患者助成事業の3本柱である①「がん患者団体への助成」②「医療機関への助成」③「読響ハートフルコンサート」事業を引き続き実施することを改めて確認します。

「がん患者団体への助成」では、患者団体の事業計画内容を最大限重視しつつ、資金力に乏しい団体や活動拠点を地方都市に置く患者会にも配慮する方針を継続します。

「医療機関への助成」に関しては、2012年度から3か年計画で作成した「ご家族のためのがん患者さんにご家族をつなぐ在宅療養ガイド」が完成したことを受け、2015年度からスタートした「ガイド」の地域や医療現場における普及と活用への取り組みをさらに強化します。

「読響ハートフルコンサート」については、地域バランスなどを踏まえたうえで、全国の8医療機関で開催します。

## がん患者支援事業

### <患者会活動への支援>

#### 患者団体等への助成事業（継続）

全国のがん患者会、サポートグループなどで、資金不足からイベントやプロジェクト、研究などができない団体を公募し、活動資金を助成する事業です。2007年度から始まり、2016年度は10回目です。2016年度助成を応募した団体は50団体でした。第三者機関である専門委員会委員会で選考し、25団体を助成対象に内定、理事会で正式に決定しました。事業の内容に応じて1団体に上限50万円を助成します。2007年度から2016年度までの助成実績は、延べ211団体となります。

### <医療機関への助成>

#### 「地域における療養支援情報普及と活用プロジェクト」

（新たな3か年計画中間年）

正力厚生会が2015年度から3か年計画で助成している「地域における療養支援情報普及と活用プロジェクト」（国立がん研究センター、がん研究会、東京大学死生学・応用倫理センター、帝京大学）は、「ご家族のためのがん患者さんご家族をつなぐ在宅療養ガイド」を完成させ、2015年11月8日（日）に開催された「がん医療フォーラム仙台2015」でお披露目したほか、2016年2月14日（日）には、地域の医療関係者を対象にした「がん医療研修会 in 沖縄2016」を開催、「ガイド」を教科書として活用する事業を本格的に始めました。

今後は、地域や医療現場での「ガイド」の普及と活用が重要なテーマとなります。

2016年度は、地方公共団体と連携を取りながら、最大500人規模の「仙台式フォーラム」を開催する一方、医師会や保健所、地域包括支援センターなど地域のリソースにかかわる関係者約100人を対象にした「沖縄式研修会」の開催を並行して取り組んでいく予定です。「フォーラム」「研修会」開催地として、岩手県大船渡市を検討しております。

以上の「フォーラム」や「研修会」で得られた知見については、ガイドの改訂作業に生かします。

こうした取り組みに対し、正力厚生会は、読売新聞紙面、正力厚生会公式サイトを通じて、事業活動を積極的に広報するほか、読売新聞の医療・介護・健康サイト「ヨミドクター」などとの連携も深めながら、活発な事業展開を実践します。

完成した「ガイド」は、全国のがん診療連携拠点病院や都道府県担当部署に配布したほか、インターネットでだれもが容易にダウンロードできる環境を整えましたが、購入をしてまでも手元に置きたいとの要望が多数寄せられていることから、一般市場での流通に向けた取り組みにも着手します。印税を徴収しないことで、販売価格を1,080円程度（税込み）にとどめる方針です。

## <QOL(クオリティー・オブ・ライフ)向上への助成>

### 読響ハートフルコンサート（継続）

がん患者や家族たちの心を癒すには、音楽が有効と考え、2007年度から公益財団法人読売日本交響楽団のメンバーを病院などに派遣して、玄関ロビーなどで弦楽四重奏を披露しています。

地域バランスなどを考慮したうえで、下記8会場で開催します。

なお、諸般の事情により、日程が変更となる場合があります。

- ①京都第二赤十字病院（2016年6月2日）
- ②兵庫県立淡路医療センター（同年6月3日）
- ③広島赤十字・原爆病院（同年9月20日）
- ④佐久総合病院佐久医療センター（同年9月28日）
- ⑤福井県済生会病院（同年11月15日）
- ⑥三重中央医療センター（同年12月9日）
- ⑦久留米大学病院（2017年1月11日）
- ⑧武蔵野赤十字病院（同年2月17日）

以上